

地球温暖化防止実行計画に係る取組結果について(令和4年度)

安曇野市市民生活部環境課
(令和6年2月15日)

第3次安曇野市地球温暖化防止実行計画を、市の事務・事業における温室効果ガス排出量の削減の取り組みとして、令和3年3月に策定しました(計画終期:令和12年度)。本計画での削減目標はCO2排出量を前年度比1.0%以上の低減としています。

この度、令和4年度の取組結果をとりまとめましたので、報告します。

CO2総排出量は前年度と比較して、約0.16%(29,749kg)減少という結果になりました。

※参考:新型コロナウイルス感染症流行前である令和元年度と比較して、約4.58%(874,626kg)減少。

なお、この結果について、影響のあった要因は以下のとおりと考えられます。

各施設での増加要因

- ①真夏日・猛暑日の増加による冷房機器の使用増加
- ②新型コロナウイルス感染症の制限緩和に伴う施設使用機会の増加
- ③新型コロナウイルス感染症予防の換気に伴う冷暖房機器の使用

各施設での減少要因

- ①公用車の削減やリモートの活用によるガソリン使用量の減少

全体を比較した結果、CO2総排出量は、削減目標としている前年度比1.0%以上の低減を達成することができませんでした。

前年度に比べ真夏日、猛暑日が多かったため、夏期に冷房機器の使用が増加したと考えられます。

新型コロナウイルス感染症の制限緩和に伴う施設使用機会の増加により、電気、灯油、LPG、重油が増加しました。また、開催を制限していたイベントや講座が徐々に再開されましたが、引き続き感染症予防の換気が必要であったため、冷暖房機器の使用量を減少させることができなかつたと考えられます。

エネルギー使用量自体を減らすだけでなく、公共施設への省エネ機器の導入やPPA事業等による太陽光発電設備の設置を促進する必要があります。特に、公用車においては、電気自動車やハイブリッド車の導入を促進するとともに、業務における公用車の大幅な使用の見直し(徒歩や自転車での移動を検討する等)が必要です。

エネルギー種別	令和4年度			令和3年度	
	使用量 ①	係数 ②	CO2排出量 (kg) (①×②) ③ (全体に占める割合)	CO2排出量 (kg) ④	R3 年度比 (③÷④) ⑤
電気	27,965,680 kWh	0.513	13,361,563 (73.32%)	13,504,803	△ 1.06%
灯油	1,161,063 ㍓	2.492	2,893,288 (15.88%)	2,890,231	0.11%
LPG	121,169 m ³	6.214	752,953 (4.13%)	723,376	4.09%
重油	300,400 ㍓	2.710	813,973 (4.47%)	742,538	9.62%
ガソリン	103,049 ㍓	2.322	239,245 (1.31%)	241,297	△ 0.85%
軽油	62,388 ㍓	2.624	163,727 (0.90%)	152,254	7.54%
合計			18,224,750 (100.00%)	18,254,499	△ 0.16%

※経年比較のため、係数はエコアクション21導入時と同様の数値を用いて算出しています。

※係数等の表示単位未満の四捨五入により、計算が合わない場合があります。

※令和4年度の本庁舎、安曇野市総合体育館、堀金総合体育館の購入電力は低炭素電力(排出係数0.0)であるため、電気の使用による温室効果ガス排出量は0として算出しています。